

JAこうか露地野菜部会（滋賀県甲賀市・湖南市）

R6補正
R7当初

40

背景・課題

当地では、露地野菜の生産において、土壌硬化、乾湿害、地力窒素の低下等に起因した生育不良と低収量が課題となっている。そこで、当事業において水田野菜における土づくりの改善のための緑肥作物の活用、緑肥の腐熟を促進するバイオスティミュラント（BS資材）の活用の検証、省力化技術として乗用型管理機の活用を検証した。

成果目標

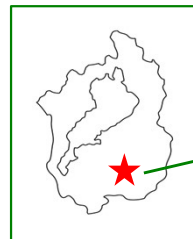
目標年度：令和8年度

○緑肥の活用による化学肥料使用量の低減

○乗用型管理機による白ねぎ土寄せ作業の軽労化

主な取組内容

- たまねぎ定植1か月前に緑肥クロタラリアとソルゴーのすき込みを比較したところ、緑肥無しの対照区と比較して緑肥区で球重が大きく、クロタラリアでその差が大きくなった。
- 白ねぎ定植前に緑肥ヘアリーベッチのすき込みとBS資材の散布を行った。また、乗用型管理機を活用し、土寄せ・施肥を同時に行うことで省力化できた。
- ソルゴーの播種では、ドローンの利用により省力化を図ることができた。



甲賀市・湖南市

構成員

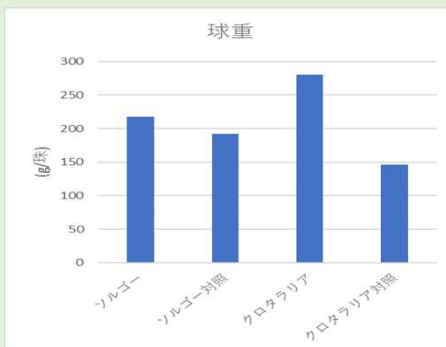
JAこうか露地野菜部会、JAこうか、滋賀県甲賀農業普及指導センター

品目

たまねぎ、白ねぎ



すき込み直前のクロタラリア

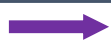


緑肥の有無によるたまねぎ収量
注）施肥、一般管理は地域慣行に準じた



乗用型管理機による省力化
(白ねぎ土寄せ・施肥同時作業)

検討中の作型



緑肥作付期間



すき込み・腐熟期間



栽培期間

時期（月） 作付品目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
クロタラリア・ソルゴー跡作 たまねぎ												
ヘアリーベッチ跡作白ねぎ												

今後の取組

当地の作型に合った緑肥として、たまねぎ前作のクロタラリア・ソルゴー、白ねぎ前作のヘアリーベッチは適切と考えられた。乗用型管理機による省力化も実証できた。今後は、緑肥およびBS資材の施用による土づくり効果や減化学肥料について検討を進める。

問い合わせ先

滋賀県甲賀農業農村振興事務所農産普及課

TEL：0748-63-6128 E-mail：ga30@pref.shiga.lg.jp

所在地：滋賀県甲賀市水口町水口6200

近江八幡市（滋賀県近江八幡市）

R6補正
R7当初

41

背景・課題

近江八幡市は古来より内湖と水路網に囲まれた低地の水田と一体のシステムを構築しており、資源循環型の農業を営んできた。

しかしながら、近年農業の担い手が高齢化し後継者のいない農家が増えていることや、資材の高騰などの課題があり、次世代の人材確保や、地産地消に取り組む仕組みの構築が急務となっている。

成果目標

○有機農業の取組面積の拡大

令和6年度 36ha → 令和11年度 63ha

○有機農業に取り組む生産者数の増加

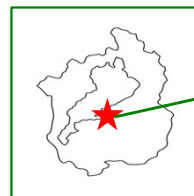
令和6年度 9人 → 令和11年度 18人

主な取組内容

【生産】座談会の開催、省力化を目指した栽培技術の実証実験 等

【加工・流通】市の実態に合わせた販路開拓（今後実施予定）等

【消費】農産物のPRや食育イベント等の開催による啓発活動 等



近江八幡市

構成員

近江八幡市オーガニックビレッジ推進検討会（滋賀県、近江八幡市、JAグリーン近江、生産者等）

品目

水稻、野菜(とうもろこし・にんじん 等)



令和7年5月17日に特定区域である円山町にて市長がオーガニックビレッジ宣言を行った。



スマート水管理システムの導入により、雑草の抑制と高温対策の検証を行った。



オーガニックビレッジ座談会を実施し、生産者や消費者等が集まり、オーガニックの推進に向けて意見交換を行った。

今後の取組

生産者や消費者等、様々な立場の人が集まって座談会を開催し、有機農業に関する意見交換を行った上でオーガニックビレッジを推進している。今後は、担い手育成の土台作りや、栽培マニュアルの策定による生産者への支援を進める。併せて、就農型地域おこし協力隊の活用や、農産物のPRや食育イベントの開催により、消費者に対して啓発活動を行っていく。

近江八幡市役所

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236番地

企画課

TEL：0748-36-5527

Mail：010202@city.omihachiman.lg.jp

農業振興課

TEL：0748-36-5576

Mail：011002@city.omihachiman.lg.jp

問い合わせ先

京北水稻農業技術者協議会（京都府京都市）

R6補正
R7当初

42

背景・課題

京都市右京区京北地域では、京の都を支えた豊かな里山環境を保全すべく、環境に配慮した農業が推進されているが、取組生産者数、面積ともに限定的なものにとどまっていた。

本事業では、右京区京北地域で営農する大規模水稻生産者を含め、幅広い生産者が導入可能な環境負荷低減技術と省力化の実証に取り組むこととしている。

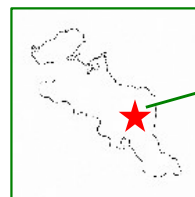
成果目標

目標年度：令和8年度

- バイオ炭の農地施用による土壌改善
- 栽培こよみの作成による化学農薬散布量の削減
- プラスチック被覆肥料の代替肥料の導入
- 直播栽培の導入による省力化

主な取組内容

- プラスチック被覆肥料の代替肥料として硫黄被覆肥料の実証を行い、慣行と比較して同等以上の単収が得られることを確認した。
- 乾田直播では、省力化を図りつつ、発芽や初期生育も順調だった。ドローンによる湛水直播では、雑草の発生が収量に影響を与えたため、改善に向けて検証を継続する。
- ほ場管理システムの導入による省力化及び作業適期の可視化



京都市

構成員

（公財）きょうと京北ふるさと公社
京都農業協同組合園部支店
京北水稻担い手協議会
京都乙訓農業改良普及センター
京都市京北・左京山間部農林業振興センター

品目

水稻



もみ殻くん炭（バイオ炭）を導入した実証ほを設置して、導入効果を検証している。



省力化栽培を目的として、メーカー等関係者の協力を受けて、直播栽培の実演会を行った。



化学農薬の使用回数を低減した「京北版：農薬低減栽培こよみ」を作成するとともに、実証結果と栽培こよみについて農家向け研修会を実施した。

今後の取組

プラスチック被覆肥料の代替肥料など、効果の確認された取組については、地域の中小規模生産者への実践誘導を図る。その他の技術についても、各構成員が連携して取組の拡大を進め、令和13年度を目途にグリーンな栽培体系の取組面積を30haまで拡大することを目指す。

京北水稻農業技術者協議会

（事務局：京都市京北・左京山間部農林業振興センター）

〒601-0292 京都府京都市右京区京北周山町上寺田1番地1

TEL：075-852-1817 Mail：keihokunourin@city.kyoto.lg.jp

問い合わせ先

堺市環境保全型農業推進協議会（大阪府堺市）

R6補正
R7当初

43

背景・課題

本市農業の多くは化学肥料を使用する慣行栽培であるが、化学肥料には価格高騰や環境負荷等のリスクがある。一方、市内の酪農団地は良質な牛ふん堆肥の供給拠点となっているが、農業者や農地の減少に伴い堆肥の利用が進まない状況である。そのため地域資源である市内産の堆肥を有効活用した取組を進める。

成果目標

- 大阪エコ農産物（化学肥料・農薬不使用区分）認証面積（水稻）：令和5年度 0ha → 令和10年度 2ha
- 大阪エコ農産物（化学肥料・農薬不使用区分）新規認証者数：令和元～5年度 3人
→ 令和6～10年度 6人

主な取組内容

【生産】緑肥や市内生産の牛ふん堆肥を活用した栽培体系の検証 等

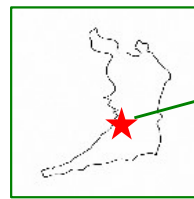
【消費】市内の大手小売店や飲食店、マルシェなどのイベント等における取組のPR 等



実証圃場にマニュアルスプレッダーを用いて牛ふん堆肥を散布



牛ふん堆肥を使用して栽培したお米の収穫風景



堺市

構 成 員

堺市、大阪府、堺市農業協同組合、鉢ヶ峯営農組合、堺市畜産農業協同組合

品 目

水稻



事業への協力生産者によるイベントでのお米販売の風景

今後の取組

本市は、有機性資源を有効に利用した土づくりを基本に、化学肥料や化学合成農薬に過度に頼らない環境に配慮した農業の普及により、持続可能で地域に根差した都市農業を振興している。令和6年度には、前年度と比較すると、域内で生産された牛ふん堆肥を活用した実証栽培への協力生産者数は1名→3名、実証圃場面積は約1,300㎡→約6,400㎡、牛ふん堆肥を使用したお米の収穫量は約660kg→約3,300kgとなった。今後は実証圃場で得られたデータに基づく栽培指針骨子の策定等により、慣行農業から化学肥料を低減した農業への転換を促進し、併せて大阪エコ農産物（化学肥料・農薬不使用区分）認証の拡大に取り組む。

堺市産業振興局農政部農水産課

問い合わせ先

〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3番1号

TEL：072-228-6971 Mail：nosui@city.sakai.lg.jp

三木市グリーンな栽培体系への転換協議会（兵庫県三木市）

R6補正
R7当初

44

背景・課題

兵庫県三木市で実施している本事業は、「ひょうご農林水産ビジョン2030」に基づき、スマート化と持続可能な農業の両立を目指している。青ねぎを対象に、有機質肥料や農薬低減技術、後付け自動操舵システム、ラジコン草刈り機を活用した省力・低環境負荷の栽培体系の構築に取り組んでいるが、地域内での導入事例が少ないことが課題となっている。



三木市

構 成 員

イオンアグリ創造(株) 兵庫三木里脇農場（事務局）、加西農業改良普及センター、三木市役所

品 目

青ねぎ

成果目標

目標年度：令和8年度

○総合的防除体系の確立及びマニュアル化

○栽培管理作業の省力化による作業の標準化・精緻化

主な取組内容

- 有機質肥料を主体とした栽培体系を実証し、草丈等の生育状況は同程度であった。
- 忌避・行動抑制効果がある黄色LED防蛾灯により、チョウ目被害株率が約35%低く、農薬布回数も削減できた。また交信攪乱剤でも被害株率が低く推移した。
- 自動操舵システムを活用した精密な畝立てにより畝本数が増加し、反収が向上した。



交信攪乱剤の設置状況



夜間の黄色LED防蛾灯



自動操舵システムによる畝立て風景

今後の取組

太陽光発電を電力源とする防蛾灯の曇天・雨天時の電力供給の不安定さや、有機肥料での厳冬期における生育状況に応じた追加的施肥の必要性といった課題に、管理マニュアルの整備、必要に応じた化学肥料の施用などの対策を評価し、協議会メンバーで連携して体系構築に取り組む。これにより、持続可能かつスマート化を両立する土地利用型大規模経営体のモデル確立を目指し、管内の既存露地農家への普及へとつなげる。

問い合わせ先

三木市グリーンな栽培体系への転換協議会
（事務局：イオンアグリ創造株式会社）

〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1

TEL：043-212-6714 Mail：y_kayano@aeonpeople.biz

丹波市有機の里づくり推進協議会（兵庫県丹波市）

R6補正
R7当初

45

背景・課題

丹波市は1975年から有機農業の歴史があるが、さらなる生産力の強化・消費者理解の醸成が課題となっており、生産者だけでなく市民や企業が広くそれぞれの立場で参画し、手を取り合いながら大切な地域資源を守り、美しいふるさとを100年後にも繋いでいくまちづくりを目指している。

成果目標

成果目標	計画時 (R3)	実績 (R6)	目標値 (R9)	達成状況
有機農業面積(ha)	163	197	188	136%
販売数量(トン)	530	615	610	106%
有機農業者数(戸)	91	133	120	145%

構 成 員

丹波市有機の里づくり推進協議会
(生産者、丹波市、JA丹波ひかみ)、兵庫県

品 目

水稻、野菜(にんじん 等) 等

主な取組内容

【生産】有機栽培技術の勉強会開催、除草作業の省力化に向けた技術実証 等

【消費】有機農業の普及啓発を目的とした「たんばオーガニックフェア」の開催、

学校・こども園における給食への有機米導入や有機農業普及啓発チラシの配布 等



イオン水生成装置と自動抑草ロボットによる雑草抑制の実証試験の様子



市営有機センターで牛ふん堆肥を製造し、安定供給体制の構築や堆肥品質向上の取組、広域散布を実施



オーガニックフェアの様子と有機農産物を使ったお弁当



こども園での有機米利用の給食と普及啓発チラシ



今後の取組

栽培技術の向上に向け、モデル圃場でのデータ収集・分析や先進地視察等を実施するとともに、販路拡大に向けた商談や意見交換等を通じて、市場ニーズの調査や生産者と実需者・消費者のマッチングに向けた情報収集を行ってきた。

現在は需要に対して供給が追いついていない状況が続いているため、生産拡大に向けた支援を優先して取り組む必要がある。今後、供給体制が整った段階で、さらなるブランド化やPR活動に積極的に取り組む。

丹波市産業経済部農林振興課

〒669-4192 兵庫県丹波市春日町黒井811番地

TEL: 0795-88-5028 Mail: nou_shinkou@city.tamba.lg.jp

問い合わせ先

天理市かよの柿エコ栽培協議会（奈良県天理市）

R6補正
R7当初

46

背景・課題

天理市萱生町は歴史ある柿産地で、「刀根早生」発祥の地として知られている。脱渋技術が確立されており、市場からも高い評価を得ている。しかし、栽培管理の負担等により園地の規模縮小を考える生産者も多く、労力軽減が生産上の課題となっている。

成果目標

目標年度：令和7年度

○労力負担軽減技術の確立

剪定時の結果母枝の芽の切り返し技術およびロボット草刈り機の導入を推進し、実用性を検討する。

○剪定枝の炭化処理技術の確立

柿の剪定枝を炭にして柿畑に戻すことで、柿栽培での炭素貯留を推進する。

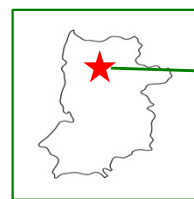
主な取組内容

○労力負担軽減技術の確立

- ・剪定時に結果母枝の芽を切り返すことで、慣行と比べて剪定時間は増加したが、摘蕾作業時間は減少した。作業適期が限られている摘蕾作業の負担が軽減された。
- ・草種の異なる3園地でロボット草刈り機を導入したところ、いずれの園地でも高い除草効果が確認された。また、除草剤使用回数は6回（地域の慣行）から0回に減少した。

○剪定枝の炭化処理技術の確立

- ・剪定枝を燃焼させ、およそ60kg（8Lバケツすり切りで50杯分）の炭を生産した。
- ・柿の木1本あたりおよそ6.5kgの炭を生産した。
- ・炭化処理した剪定枝は農地に施用し、その効果を実証した。



天理市

構成員

生産者、天理市、
奈良県北部農業振興事務所

品目

柿



剪定時の芽の切り返し



ロボット草刈り機による
除草作業の負担軽減



無煙炭化器による
夏季剪定枝の炭化処理

今後の取組

生産者とともに各技術の実用性について検証を重ね、実用化を目指す。また、講習会を定期的
に開催し、実証した技術やマニュアル等を情報提供し、天理市内での取組面積の拡大を目指す。

問い合わせ先

天理市かよの柿エコ栽培協議会（事務局：奈良県北部農業振興事務所）
〒639-1041 奈良県大和郡山市満願寺町60-1
TEL：0743-51-0372
Mail：shimaoka-ryuhei@office.pref.nara.lg.jp